

14. 調査結果のまとめ

（１）回答者の特徴について

- 性別は「女性」が 56.3%とやや高く、年齢は前期高齢者が 45.1%、後期高齢者が 53.5%となっており、後期高齢者の割合が多くなっています。（問 39、問 40）
- 家族構成については、「夫婦二人暮らし（配偶者は 65 歳以上）」の割合が 34.6%で最も高く、次いで「一人暮らし」（29.5%）となっており、高齢者総合相談センター圏域でみると、“いけよんの郷” “アトリエ村” は「一人暮らし」の割合が最も高くなっています。一人暮らし以外の方で日中独居は「たまにある」の割合が 43.1%で最も高く、高齢者総合相談センター圏域でみると、“菊かおる園” “東部” は「よくある」の割合が最も高くなっています。（問 43、問 43-1）
- 認定状況については、「一般高齢者」の割合が 79.3%で最も高くなっています。「要支援 1」、「要支援 2」で現在介護保険サービスを利用している方は 63.7%、一度も利用していない方は 23.3%となっています。（問 59、問 59-1）

（２）毎日の生活について

- 外出の頻度については、「毎日 1 回以上」の割合が 46.5%で最も高く、次いで「週 5～6 回」（23.8%）、「週 2～4 回」（22.2%）などの順になっています。介護度別でみると、“要支援 1” “要支援 2” は「週 2～4 回」の割合が最も高くなっています。（問 4）
- 外出を控えているかについては、「いいえ」が 78.5%で、「はい」（17.0%）を上回っています。控えている理由については、「足腰などの痛み」の割合が 55.8%で最も高く、次いで「病気」（20.7%）などの順になっています。（問 7、問 7-1）
- 「電車・バス・タクシー」を利用する際、月額どれくらいのお金を支出されているかについては、「2,000 円～3,000 円未満」の割合が 25.5%で最も高くなっています。また、現在の交通で不便だと感じることにについては、「車内が混雑している」の割合が 22.9%で最も高く、次いで「タクシーがつかまらない」（20.1%）、「乗車料金が安い」（12.8%）などの順になっています。（問 9、問 10）

（３）健康について

- 治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」の割合が 41.8%で最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」（18.3%）、「目の病気」（17.9%）などの順になっています。（問 13）
- 認知症に関する相談窓口の認知については、「いいえ」が 69.5%、「はい」が 26.6%となっています。（問 14 g）

(4) ころについて

- 主観的幸福感については、「高得点群」の割合が 68.9%で最も高く、次いで「中得点群」(26.1%)、「低得点群」(3.1%)などの順になっています。主観的健康感でみると、“よくない”は「中得点群」の割合が最も高くなっています。(問 21)

(5) 交流について

- 友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」の割合が 28.0%で最も高く、次いで「月に何度かある」(26.0%)、「年に何度かある」(20.4%)などの順になっています。幸福度別でみると、“低得点群(0～3点)”は「ほとんどない」、「中得点群(4～6点)”は「月に何度かある」、「高得点群(7～10点)”は「週に何度かある」の割合が最も高くなっています。(問 23)
- 周囲との助けあいについて、「そのような人はいない」は、心配事や愚痴を聞いてくれる人では 7.7%、心配事や愚痴を聞いてあげる人では 9.7%、看病や世話をしてくれる人では 13.2%、看病や世話をしてあげる人では 21.4%となっています。(問 25 a～d)
- 家族や友人・知人以外の相談相手については、「そのような人はいない」が 40.4%で最も高く、相談相手では「医師・歯科医師・看護師」(35.7%)が多くなっています。(問 26)
- 地域の人からの役割の期待については、「まったく思わない」の割合が 34.7%で最も高く、次いで「あまり思わない」(34.5%)、「やや思う」(18.0%)などの順になっています。(問 27)
- 自分でできる手助けについては、「安否確認の声かけ」の割合が 56.4%で最も高く、次いで「ちょっとした買い物」(34.9%)、「話し相手や相談相手」(30.6%)などの順になっています。介護度別でみると、“要支援 2”は「手助けはできない」の割合が最も高くなっています。(問 28)
- 社会活動の参加については、「参加している」は「趣味関係のグループ」(28.9%)、「収入のある仕事」(27.5%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(22.9%)、「町会・自治会」(12.8%)などの順になっています。(問 29 a～h)
- 社会活動への参加者としての参加意向については、「参加してもよい」の割合が 51.1%で最も高く、次いで「参加したくない」(35.0%)、「是非参加したい」(5.4%)などの順になっています。各リスク判定でみると、運動器・閉じこもり・低栄養・IADLの該当者は「参加したくない」の割合が最も高くなっています。(問 30)

(6) 災害時及び事故対策について

- 緊急時における単独避難の可否については、「できる」の割合が 78.4%で最も高くなっています。介護度別でみると、“要支援 2”は「できない」の割合が最も高くなっています。(問 32)
- 単独避難が「できない」「わからない」と回答した方で、避難に際して手助けを求められる人については、「いる」が 48.8%で、「いない」(42.1%)を上回っています。高齢者

総合相談センター圏域でみると、“中央”“ふくろうの杜”“豊島区医師会”は「いない」の割合が「いる」を上回ります。（問 32-1）

- ヒートショックの認知については、「知っている」の割合が 92.0%で、「知らない」(5.9%)を上回っています。入浴時の事故を防ぐためにしている対策については、「シャワーでお湯を溜めたり、ふたを開けておくなどで、浴室全体を暖めている」の割合が 46.6%で最も高く、次いで「脱衣所を暖めている」(38.0%)、「浴室に手すりを付けている」(35.7%)などの順になっています。（問 36、問 37）

（7）介護予防・介護について

- フレイルの認知については、「どのような状態か知っている」の割合が 40.8%で最も高く、次いで「知らない」(34.1%)、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」(23.0%)などの順になっています。（問 48）
- 認知症に対するイメージについては、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」の割合が 38.2%で最も高く、次いで「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」(22.9%)などの順となっています。介護度別でみると、“総合事業対象者”は「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合が最も高くなっています。（問 50）
- 認知症について思うことについては、「認知症のことは気軽に人に話し、自ら『早期受診・相談』をすることで、医療や福祉などの社会資源やサービスにつながり、暮らしやすくなる」の割合が 52.7%で最も高く、次いで「認知症になっても誰もが暮らしやすい街にするためには、『地域の協力』が必要だ」(49.6%)などの順となっています。自分または家族に認知症の人がいると回答した方の中では「認知症になっても『わかること・できること』が豊富にある」の割合が最も高くなっています。（問 51）
- 健康や介護・認知症予防のための活動内容については、「口の中を清潔にしている（歯磨き、うがいなど）」の割合が 72.5%で最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けたり、かかりつけの医師（主治医）に診てもらっている」(65.5%)、「ウォーキングや体操などの運動に取り組んでいる」(55.2%)などの順になっています。（問 52）
- 運動する頻度については、全体では「週 5 日以上」の割合が 23.1%で最も高く、次いで「月 1 日未満／まったく運動していない」(22.8%)、「週 3～4 日」(21.8%)などの順になっています。（問 53）
- 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「特になし」の割合が 40.1%で最も高く、次いで「配食（食事の提供）」(29.1%)、「掃除・洗濯」(24.9%)、「見守り、声かけ」(20.2%)などの順になっています。介護度別でみると、“一般高齢者”は「特になし」、「要支援 1」“総合事業対象者”は「配食（食事の提供）」、「要支援 2」は「掃除・洗濯」「外出への同行（通院、買い物など）」（同率）の割合が最も高くなっています。（問 55）
- 今後利用したい見守りサービスについては、「見守りは必要としない」の割合が 34.3%で最も高く、次いで「高齢者総合相談センターなどの公的機関による見守り」(32.6%)、

「民生委員や高齢者クラブなどの近隣住民による見守り」（16.9%）などの順になっています。高齢者総合相談センター圏域でみると、“菊かおる園”“東部”“中央”“西部”は「高齢者総合相談センターなどの公的機関による見守り」の割合が最も高くなっています。（問 56）

- 介護を受けたい場所については、「自宅」の割合が 40.4%で最も高く、次いで「介護施設」（27.3%）、「わからない」（13.8%）などの順になっています。介護度別でみると、“要支援 1”は「介護施設」の割合が最も高くなっています。（問 57）
- 人生の最期を迎える場所の希望については、「自宅」の割合が 41.6%で最も高く、次いで「病院」（16.9%）、「わからない」（15.3%）などの順になっています。（問 58）
- 介護・介助が必要となった主な原因については、「高齢による衰弱」の割合が 29.7%で最も高く、次いで「骨折・転倒」（22.6%）、「糖尿病」（13.8%）などの順になっています。（問 61-1）
- 主な介護・介助者については、「配偶者（夫・妻）」「娘」の割合が同率 28.7%で最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」（26.6%）、「息子」（19.1%）などの順になっています。（問 61-2）
- 高齢者総合相談センターの認知については、「知らない」の割合が 40.7%で最も高く、次いで「自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている」（25.7%）、「センターの名前は知っている」（12.5%）などの順になっています。高齢者総合相談センター圏域でみると、“菊かおる園”“中央”“いけよんの郷”“ふくろうの杜”は「知らない」の割合が 4 割以上を占めます。（問 62）

（８）基本チェックリストによる判定について

- それぞれのリスク該当者は、ロコモリスク判定が 45.1%、運動器リスク判定が 11.1%、転倒リスク判定が 27.4%、閉じこもりリスク判定が 5.7%、低栄養リスク判定が 1.6%、口腔機能リスク判定が 22.5%、認知機能リスク判定が 32.9%、うつ傾向リスク判定が 38.1%、IADL リスク判定が 8.6%となっています。
- ロコモリスク該当者のリスク項目では、階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについて「できない」が 13.8%、15 分位続けて歩いているかについて「できない」が 4.6%、日常生活においての困難について「片脚立ちで靴下がはけない」の割合が 37.2%で最も高くなっています。（問 1 f、問 1 h、問 11）
- 運動器リスク該当者のリスク項目では、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについて「できない」が 8.7%、過去 1 年間に転んだ経験があるかについて「ある」が 27.4%、転倒に対する不安は大きいかについて「不安である」が 50.1%となっています。（問 1 g、問 2、問 3）
- 低栄養リスク該当者のリスク項目では、「低体重（BMI 18.5 未満）」が 9.5%、この 6 か月間で、2～3 kg 以上の体重減少があるかについて「はい」が 12.4%となっています。（問 17、問 16 e）

- 口腔機能リスク該当者のリスク項目では、半年前に比べて固い物が食べにくい、お茶や汁物などでむせる、口の渇きが気になる、のいずれも「はい」が 30%近くになっています。
(問 16 a ～ c)
- うつ傾向リスク該当者のリスク項目では、こころの状況について「はい」が 36.4%、意欲の状況について「はい」が 17.4%となっています。(問 22 a、b)
- IADLリスク該当者のリスク項目では、バスや電車を使って1人で外出しているかについて「できない」が 4.7%、自分で食品・日用品の買い物をしているかについて「できない」が 3.4%、自分で食事の用意をしているかについて「できない」が 4.9%、自分で請求書の支払いをしているかについて「できない」が 3.4%、自分で預貯金の出し入れをしているかについて「できない」が 3.5%となっています。(問 1 a ～ e)